



## 伊那谷断層帯の実査と防災講演会開催結果

大出区安全安心なまちづくり推進協議会は、令和元年 6 月 1 日(土)信州大学・廣内大輔教授を講師に迎えて地区内外からの参加者 62 名で「伊那谷断層帯実査と防災講演会」を開催しました。

○実査では、山口地区の県道与地辰野線沿いの伊那谷断層を確認

○講演会では、廣内教授から

- ・なぜ地震はおきるのか
- ・地震は地面のずれ被害と揺れ被害がある
- ・箕輪町の地震被害
- ・どう備えるのか

等についての話がありました。

○参加者からは、「伊那谷断層帯を自分の目で知ることができ、そのうえで被害、対応など貴重な話を聞くことができ、とても良かった。」との声が多く聞かれました。

### ○開催日時

令和元年 6 月 1 日(土)午後 1 時 30 分から午後 4 時

### ○開催場所・内容

大出区山口集会所付近での実査と大出コミュニティセンターでの講演会

### ○参加者

62 名

アンケート(回答 41 名・記載がない項目もあり)によると

大出区	28 名	地区外	11 名	町外	2 名
男性	35 名	女性	5 名		
年代	40-50 代	11 名			
	60-70 代	27 名			

### ○実査の概要

廣内教授から提供された伊那谷断層帯に係る航空写真で説明を受けました。

- ・断層がなぜ判るのか

扇状地のため一定の傾斜があるが道路の手前で傾斜が急になり、上で緩やかになる傾斜が不連続である。

この状況と航空写真から判読する。



【山口集会所前の参加状況】

## ○大出コミュニティセンターでの防災講演会



【講演会の状況】

- ・ 廣内教授の講演を聞きました。
- ・ 講演後、参加者質疑の時間を設けました。
- ・ 講演会后、アンケートをお願いしました。

## ○ 廣内教授の講演要旨

- ・ 日本付近のプレートは年間7センチ西に移動しておりプレート境界型地震の原動力となっている。東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の直後、内陸でも地震活動の活発化が見られた。
- ・ 2015年の試算によると、糸魚川静岡構造線が動くと箕輪町は震度7~6弱  
伊那谷断層は30年以内の発生はほぼゼロであるが、動くと震度7が予測される。
- ・ 今日本は、原発とダムだけに断層に関する規制があるが、公共性のある建物は断層を避けるべき。
- ・ 個人としての地震への備えは、①壊れない家 ②備蓄 ③どうするか決める日頃の訓練
- ・ 行政に頼らない住民自治組織の役割は大きく、  
①地域の防災マップを作る  
「危険マップ」「資源マップ」「行動マップ」を合わせて防災マップという  
②避難所運営訓練、災害図上訓練の実施  
が必要。
- ・ 断層に関して、どのあたりまで影響があるのかとの質疑に対して、廣内教授は地震では、「地面のずれ被害」と「揺れの被害」があるが、真上は「ずれ」と「揺れ」の両方、揺れは全域とわかりやすく説明してくれました。

## ○ アンケート結果から

- ・ 参考になった事項  
断層の位置が一番多く、次に地震に備えた措置でした
- ・ 今後知りたい事  
より具体的な備えが一番多くなっています
- ・ 意見要望  
幅広い呼びかけで多くの参加を  
対策の必要性を痛感しました  
具体的なコミュニティ活動の充実を  
等



～以上～